



(第 26 図)

(17)『伊能図集成「大図」「小図」』

「大日本沿海輿地全図」小図（第 26 図）

年代 江戸時代後期

寸法 原図 242.4×164.5

刊本の図版(原図の一部) 55.5×76

所収 刊本 鈴木純子・渡邊一郎編集『伊能図集成

「大図」「小図」』柏書房 1999 年発行

所収刊本の所蔵 国立国会図書館(YP6—159)

第 26 図は、刊本『伊能図集成「大図」「小図」』に掲載される「大日本沿海輿地全図」小図で、「五畿内 東海道 北陸道 東山道 部分図」である。原図の縮尺は 43 万 2 千分の 1 で、小図の縮尺は大図の 12 分の 1 にあたり、全国を 3 枚でカバーする。刊本の図はその原図の一部を印刷図版としており、本絵図では第 26 図に掲載した。第 26 図の部分図を見ると、御嶽から赤い線が観測点に伸び、阿多野郷、高山町、東濃、西濃から御嶽への方位を計測したことがわかる。この方位計測は、街道の距離計測、緯度、経度の観測結果をまとめて図化する際の、誤差修正に役立っており、伊能図の精度が高まっている。

伊能忠敬らの測量隊は、寛政 12 年(1800)からあしかけ 17 年にわたって測量をしているが、飛騨へ測量に入ったのは文化 11 年(1814)第 8 回測量で、第 2 次九州および中国・中部内陸が対象となった。

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。